



# 図書館だより 4月号



2021.4 No.292

岡垣サンリーアイ図書館発行

## オススメの新作図書

【一般向け】

### 『金閣を焼かなければならぬ 林養賢と三島由紀夫』

内海 健／著 河出書房新社

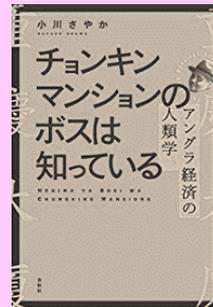


70年前、「美への嫉妬」とつぶやいた青年僧が、金閣に火を放った。狂気に秘められた真相を追究・分析するノンフィクション。

【一般向け】

### 『チョンキンマンションのボスは知っている』

小川 さやか／著 春秋社



香港のタンザニア人の生活は、日本の常識から見れば「まさか！」の連続。閉塞した日本の状況を打破するヒントに満ちた一冊。

【児童・YA向け】

「岩波少年文庫」55冊が新たに仲間入り！終戦後間もない、1950年のクリスマスに創刊された岩波少年文庫。子どもたちへの温かい愛情をモチーフにして生まれた、世界文学の宝庫です。時を経てもその価値は失われず、世代を超えて読み継がれています。どうぞ、世代を問わずお楽しみください。

【児童・YA向け】

### 角川学習まんがシリーズ 『世界の歴史』全20巻

羽田 正／監修 KADOKAWA

世界史教育の最先端！同時代に世界各地で起きたことを多角的に語る、「グローバル・ヒストリー」という考え方を採用した歴史まんが♪最新の世界情勢や新型コロナウイルス感染症の話題まで盛り込まれています。

## 読書会通信

### 【2月の読書会より】 『墮落論』 坂口 安吾／著 理論社

終戦後、文学の道を歩きはじめて安吾が、戦争の虚しい美しさや従順な人間の姿に違和感を持ちはじめ、人間の美しさはどこにあるのか悩みます。そして彼は笑うことで墮落を肯定し、自殺を笑い、無を笑い、永遠なるものを笑い、完全な美しさを笑い、現実を全て肯定してやっと人間が始まると考えるのです。

在来の形式道徳に反抗した小説「白痴」は戦後混乱期の人々の心を捉えたそうです。  
〔井村 晴代〕

